

令和3年度第2回防府市図書館協議会

日時：令和3年11月2日（火） 午前10時～午前11時

場所：防府市役所 1号館3階南北会議室

■出席者

（委員）藤村会長、安光副会長、原田委員、河村委員、新田委員、山崎委員、
吉武委員、津田委員、井川委員（計9名）

（事務局）江山教育長、杉江教育部長、石丸教育部次長、尾中教育総務課長、
大野図書館長、御手洗図書館管理室長

■欠席者 岡田委員

■傍聴者 2名

■議事録

○事務局

定刻になりましたので、ただ今から「令和3年度第2回 防府市図書館協議会」を開催いたします。

それでは、防府市図書館協議会規則第三条第1項に、「会長は会議の議長となる」と定めておりますので、これからの会につきましては、藤村会長に議事進行をお願いいたします。

○議長

それでは、会議を進めさせていただきます。限られた時間ですのでスムーズに運びますように御協力をお願いいたします。

今回の会議につきましても前回と同様に、会議及び会議録につきましては、「公開」ということでよろしいでしょうか。

（異議なしの声）

では、異議なしということで、「公開」で進めてまいりますので、よろしくお願ひします。

それではこれより議事に入ります。議題1の令和3年度事業実施状況について事務局から説明をお願いします。

○事務局

令和3年度の事業実施状況について、事務局の方から御説明をいたします。本年度第1回協議会で、令和2年度の図書館事業の評価をいただきました。図書館ではそれを踏まえ、日々のサービスの向上に努めているところです。

本日は、令和3年度、本年度事業の9月末までの実施状況について、図書館長から御説明をいたします。

大きな項目ごとに御説明を差し上げて、その後、委員の皆様から御質問、御意見をいただくという形で進めていけたらと思いますので、どうぞ、よろしく願いいたします。

○館長

失礼いたします。説明に入ります前に、提出させていただきました資料の方に誤りがございましたので、お詫びして訂正させていただきます。

該当箇所は7ページでございます。5-(1)の②のところでございます。地域文庫と、団体貸出業務ですが、こちらの方の団体数を157としておりますけれども、実際に158団体の誤りでございました。申し訳ございませんでした。訂正していただけたらと思います。

皆様にはあらかじめ、資料に目を通していただいているという前提で、ここでは、令和3年度になってからの新たな取り組みを中心に、説明をさせていただきます。

なお、各項目名については、時間の都合上、いちいち読み上げることはせず、数字番号で説明させていただきますので、御了承ください。

それではまず、大きい項目の1、1ページの1の(1)、③と④でございます。先ほど会長の話にもございましたけれども、今年度は新型コロナ感染拡大防止のために、5月13日から5月31日までの19日間、そして8月28日から9月26日までの30日間と、2回にわたって臨時休館といたしました。

その間、閉架書庫の和書の整理や図書の修理などを行うほか、エントランスホール入口のところに、臨時のカウンターを設けまして、資料の返却、そして予約資料の貸出、或いは予約リクエストの受付を行いました。

なお、予約本の受付につきましては、普段は貸出中の資料のみとしておりますけれども、この臨時期間中につきましては、在架の本、図書館の中にある本につきましても、1冊だけ、2回目8月の時には3冊までと、冊数を増やしました。在架の資料についても予約を受け付まして、翌日以降に貸出ということで、できるだけ多くの利用をしていただけるように、工夫をさせていただきました。

また本館の方は休館をしておりましたけれども、移動図書館車につきましては、休館中も感染防止に努めながら予定通り運行し、ステーションによっては、普段よりも多い利用者に利用をしていただきました。

続きまして同じ1ページの1の(2)の①でございます。

5年ごとに、コンピューターのシステムを更新していくということになっておりまして、今年度はその更新の年に当たります。

12月10日から17日までを臨時休館とする予定でございまして、現在は、そ

のシステム更新の準備を進めております。

なお、今回の更新で変わる点がいくつかございます。口頭で申し上げますが、まずコンピューターシステムのパッケージソフトは、現行の Lics-Re2 というソフトを再利用しますので変更しません。しかし、その分に当てていた予算分で、入館者カウントプログラムを含む入場ゲート一式を更新したいと思っております。子どもさんたちがゲートにもたれかかったりするような加減で、少し傷んでおりますので、その分の予算でこのゲート一式の交換をする予定でございます。

また、現在 10 台あります OPAC のデスクトップパソコンのうちの 3 台を撤去いたしまして、代わりに OPAC 用のタブレット 2 台を、図書館内の西側部分にある児童カウンターと、東側部分の 3 類あたりの一般開架にそれぞれタブレット 1 台ずつ用意したいと考えております。

それから、現在 10 台あるインターネットコーナーのデスクトップパソコンのうちの 6 台も撤去しまして、代わりに、館内だけの利用となりますけれども、貸出用のタブレットを 3 台導入いたします。

そして、これまで使用していた LAN シートがもう製造されていないという状況ですので、それに代わるものとして、持ち込みパソコンコーナーとインターネットコーナーまでのエリアでは、フリースポット Wi-Fi が使えるように変更して参ります。

また、視覚障害者等用のデジタイズ機の再生機 1 台を、新規に導入するとともに、障害者サービス室のパソコンと貸出用タブレットにも、視覚障害者等用のデジタイズ機再生ソフトをインストールいたします。

さらに、自動貸出機に既存のサーマルプリンターを接続しまして、レシートとシールで貸出リストを発行できるようにいたします。

以上が主な変更点ですが、変更後は、タブレットやデジタイズ機の再生等の利用方法につきまして、チラシや掲示等によって、利用者への周知に努めて参りたいというふうに考えております。

続いて 2 ページ目となります。

1 の (3) -①につきましては、市役所の建替工事の関係で、この 4 月から、昨年より 1 ステーション減の 6 コース 36 ステーションで運行しておりますけれども、利用者の多い大道小学校の児童たちが、中学校進学後にも利用できないかという御相談がありまして、新ステーションとして、大道中学校を設けることが可能かどうか、今、実際に試運転、試走等もしまして、現在調整中でございます。できれば来年度 4 月からの運行を考えております。

以上、大項目 1 についての御説明を終わります。

○議長

大項目 1 の (1) (2) (3) (4) について、御説明いただきましたが、何か、御質問、

御意見ございましたら、お願いいたします。

システム更新について、少しわかりにくい面があるかと思えますけれども、かなり変更点があるということですね。

それと、気になっていることがあります。臨時休館中の職員の方々の待遇というか、特に、契約職員の場合はどうなっているのですかね。

○館長

臨時休館中も平常勤務ということで、先ほど申しました閉架書庫内の和書の整理や図書修理工等、あるいは開架の整理等、普段なかなか出来ないところの対応の仕事をしております。

具体的な対応としましては、館外にカウンターの業務を臨時に設けておりますので、それだけで常時2人が必要でもあることから、特に在宅、自宅でのリモートでの勤務ということはいたしておりません。

○議長

はい、わかりました。他の方は、いかがですか。

○委員

質問していいでしょうか。

システム更新があり、今までの既存のものでも使えるものは使われるということで、その浮いた部分でいろいろと新しくすることは、とても素晴らしいことだと思います。

古いパソコンをタブレットに変えるとお聞きしましたが、一つはフリースポットWi-Fiとおっしゃっていましたが、有線LANっていうのは現状では、使われているということでしょうか。新しくWi-Fiを入れられるということですが、自分でパソコンを持ってくれば、それを使ってインターネット等の接続できるということで理解してよろしいのでしょうか。

○館長

現在でも無線での利用が可能なのですけれども、一応先ほど申しましたLANシートが、もう製造してないため、いわゆるフリーWi-Fiということで、自宅から持ってこられたパソコン、あるいは携帯・スマホ等について、すべて利用可能になります。図書館内でのフリーWi-Fiは、ゲームに使われるのではないかと、いろんなことがよく指摘されますけれども、基本的には、図書館内の限られたエリアでの利用であり、コロナ禍の中での図書館利用について、利用者の方には滞在時間を1時間というお願いをしておるのですけれども、Wi-Fiについても、利用の制限等はかけさしていただいて、御利用いただくという予定にしております。

○委員

はい。もう一つ質問ですけれども、デイジー図書のことです。県立図書館で

も部屋を設けて、デージー図書の利用ができるようになっていきます。県立図書館の利用状況については、詳しく聞いておりませんが、どうしても対象が限られてくるから、そう頻繁に利用があるようには思えないです。だから利用促進は、なかなか難しいと思います。そもそもデージー図書は、何ぞやっていう説明がないと、一般の方も理解できないというようなところがあると思いますが、この利用ということについて、今後どのように考えておられますか。

○館長

また後程、障害者サービスのところでも触れますけれども、正直申しまして、対面朗読室は対面でございますので、お一人での利用以外はお断りしておりますので、利用状況は実質ゼロでございます。ただ、いわゆる音声デージーデータをCDに焼くことのできる、国立国会図書館の視覚障害者等用のデータ送信サービスの送信承認館になりましたので、公民館や遞送便、あるいは郵送等を使って御利用いただく、またメール等でいわゆる郷土資料を、御利用いただくとか、そういう形でのサービスの開始について、考えております。御指摘のとおりデージーにつきましては、正直、あまりなじみのない言葉でございますので、一般の利用者の方には、なかなか理解しにくいところでございますが、マルチメディアのデージーや音声デージーの提供について、併せまして、来年の4月からのスタートに向けて、これから周知を図りたいと考えております。

○議長

デージーというのは、デジタル(D)アクセシブル(A)インフォメーション(I)システム(S)のことです。他にないようでしたら、2項目をお願いいたします。

○館長

それでは大項目の2、4ページ目でございます。

2の(1)の①につきまして、今年度は第10回防府市子ども読書フェスティバルを、当初は6月5日に開催する予定でしたが、新型コロナの感染拡大防止のために、7月17日に延期をして開催いたしました。

なお、メインイベントのトークショーですが、詩人で絵本作家でもある林木林(はやしきりん)さんを講師としてお迎えしまして、コロナ禍での開催ということもありましたので、東京の林さんの方は、リモートで参加していただくという形になりました。今日、子ども読書フェスティバルの様子を知らせる「子ども読書のまち防府」を、実行委員の方で発行されましたので皆様方の机の上に配布させていただいております。こちらも併せてご覧いただけたらと思います。

また第31回防府図書館まつりを10月16日に開催する予定でしたが、やはり新型コロナ感染拡大防止のためということで、少し遅くなりますが、令和4年3月12日に延期することになりました。

続きまして、同じく4ページ目、2-(2)、①につきまして、前回の図書館協議会でいただいたボランティア養成講座が、少し内容が高度すぎるのではないかというような御指摘、御意見を踏まえまして、講座の内容を一部見直し、今年度は、乳幼児と楽しむ絵本とわらべ歌というテーマで、光市立図書館の現職の司書を講師に迎えて、より実践的な内容の講座となるよう予定をしているところでございます。

○議長

何か御意見、御質問ございましたら、どうぞ。イベントの延期について何かありますか。

○委員

今、図書館のボランティア団体というのは、図書館を利用しているサークルが主にやっている状況です。部外者の方を募集しておりますが、そんなに集まらないなあというのが現状です。

図書館まつりというのは、古本リサイクル市が一番大きなメインイベントですが、本はとても重たいし、私たちも体力的に段々きつくなる中、本当にちょっと無理がきかなくなっています。いつも10月のフリーマーケットと一緒にしていると、どうしてもボランティアの集まりが、悪いのです。集客という面では、人がたくさん来てくれるのでいいのですが、実際に働き手が、すごく少なくなってしまう。それで、そういう費用をちょっとまた別口で図書館まつりに定めていたり、近所に防府商工さんがいらっしゃるので、あそこの生徒さんとかを巻き込んでいたり、調子がいいかもしれませんが、若い人の力を借りて、また盛り上がったらいいなと考えています。

○議長

何か御意見、イベントについて、どうですか。

○委員

防府図書館で、私たちボランティア団体の図書館まつりが一大イベントとなっております。皆さんも御存知のように、私たちは本当に一生懸命頑張っておりますが、先ほど吉武さんも言われたように、ボランティアが高齢化しておりますので、ぜひ若い方を巻き込んで、一緒に活動していただけたらいいなと思っております。

それとボランティア養成講座が、今回新しくなるというお話を聞きまして、楽しみにしております。ぜひPRに努めていただいて、多くの方が、参加していただけるようお願いしたいと思います。私も、日にちが合えば参加したいなと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○議長

子ども読書まつりの会報「子ども読書のまち・防府」をお手元にお届けして

おります。林木林さんは防府出身の方ですが、言葉遊びなので、大変楽しかったのです。ただ、リモート出演ということで、臨場感がちょっと欠ける面はありましたが、FMわっしょいの乾さんが、上手に司会してくださったのでよかったです。他に何かございますか。

それでは次の項目をお願いします。

○館長

それでは続きまして3の項目、同じく4ページ目でございます。3の(1)の①、この中に、いろんなイベントがございますが、まず、新規のイベントとしまして、シニア向け実用講座というのが、今年度からスタートしました。昨年度スタートする予定でしたけれども、コロナの関係で1年遅れになりました。

今年度からの新規イベントとして、「大人のくらし塾」と銘打ちまして、第1回目は、市内の株式会社三友の職員の方に来ていただきまして、9月29日と10月7日に初心者対象のタブレット体験会を開催しました。コロナ禍ということで、人数制限をしたため、非常に多くの申し込みをいただいたのですけれども、たくさんの方に参加をお断りせざるをえないという状況でした。図書館でもタブレットを配置するということがありますので、またそういう機会があれば、検討していきたいと思っております。参加された方からは、非常にわかりやすい説明でよかったと好評を得ております。

また、昨年からスタートし、毎月1回開催しているイベント「月いちキネマ」は、曜日や時間が限定していると、見られない人はいつも見られないという利用者の御指摘がございましたので、今年度からは、曜日や時間が偏らないように、開催日時を決めております。毎回、定員になるのが早く、30分ぐらい前から整理券を求めて並んでいらっしゃる状況で、心苦しいところもありますけれども、いつも定員一杯というような状況です。

なお12月3日開催予定の月いちキネマは、障害者週間に合わせまして、バリアフリー月いちキネマとして「おくりびと」を上映する予定です。

さらにビブリオバトルでございますが、今年度は子ども読書フェスティバルでの開催を見送りまして、秋と春の2回の開催予定にしております。

秋は11月13日に第1回目を開催予定としており、中学生をバトラーとする中学生大会の予定でございます。大道中学校の原田校長先生を始めとし、市内の各中学校図書館担当者に、協力をお願いしましたところ、バトラー5名が参加してくれることになりました。初めての試みではございますけれども、今後、毎年恒例の行事にしていきたいと考えております。

この図書館協議会の委員の皆様や、学校図書関係の皆様にもぜひ御参加いただきまして、今後についての御意見をいただきたいと考えております。

○議長

御質問、御意見ございましたら、どうぞ。

タブレット研修の件は、山口新聞か何かに、掲載されましたね。

○委員

先ほどありました大人のくらし塾、タブレット講習会に参加させていただきました。1回目の申し込みは定員いっぱいでしたので、すごい大盛況のようで、2回目なら空いていると言われましたので、10月17日に参加しました。私は、現代の機械に弱くて、タブレットを初めて触るような状況でしたが、親切に教えていただきました。

先ほど館長の説明の中に、コンピューターシステムの変更により、タブレット導入という御説明がありました。皆さんはお出来になると思うのですが、私たちの年代の者はちょっと機械に弱いものですから、こういう変更の時には、どなたか教えていただける詳しい方、または張り紙等、使い方の書いてあるものを掲示していただけたらいいなと思っております。先ほど申し上げた大人のくらし塾は大変楽しい講習でございまして、恥ずかしながらスマホも同じことができるというのを初めて教えていただきましたので、家のスマホで練習しております。

ぜひ大人のくらし塾という名前も素晴らしいですし、これからいろんなことにチャレンジしていただけたらと思っております。

○委員

昨年度からの懸案事項だったビブリオバトルを、今年開催していただいたおかげで、本校としても、国語の時間に、各学年、二、三時間かけて、本に親しみを持ったり、ビブリオバトルを実際に学級でやってみたりということで、読書活動はもちろん、表現活動の推進にも役立ちました。子どもたちの意欲とか、あるいは表現力を高める大きなきっかけづくりをさせていただくことができました。その中でも、防府市の図書館にも行って、ビブリオバトルがやりたいということで、2年生の女子が、今回参加をしてくれることになりました。

それまでに、各学校の方にも研修会を開いていただいたり、或いは今年度、研修会を行ったりしたので、これからもいろんな中学校にも広まっていくように、今回のビブリオバトルがきっかけとなって、さらに広がり、図書館に向かう中学生とか、或いは、先ほど申しましたように、読書活動を通してプレゼン力とか表現力を高めていける、そういう取り組みにつなげていけたらなと思っておりますので、今後とも、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

○議長

はい。ありがとうございます。中学生のビブリオバトル楽しみですね。

私もビブリオバトルについては、山口と防府で、第1回目のときに、出演したのですが、5分間で本の説明するのですが、タイマーがあって、そこに時

間が出てきますので、なかなかスリル感もありまして、今、校長先生が言われましたように、プレゼンテーションの練習に本当にもってこいだと思いますね。

さて、5 ページの最後のところですけど、新型コロナ感染拡大防止のため、お話のへやと準備室は閉鎖していることが出ておりますけど、お話のへやは、やはり、空気清浄機を入れても難しいのですかね。

○館長

一旦、お話のへやを開放しようということにしたのですけれども、参加される親子の人数が多くて、密を避けることを考えた場合に、あの部屋の狭さですと、せいぜい3組から4組ぐらいでのお話会の開催になり、他はお断りしなくてはなりません。それならば、皆さんに参加していただけるように広い研修室で開催をすることになったため、今は研修室一本でお話会等をお願いします。

○議長

他によろしいですか。

○委員

準備室の方もまだ使えない状況ですか。少人数で打ち合わせとかする時に、どうしても研修室を取らなくちゃいけないのですけれども。

○館長

準備室は、御承知のように、入口だけで窓も何もない状況です。今、図書館全体の椅子とか机を減らしておりますけれども、それらを入れるような倉庫代わりに使われているような状況です。なんと言っても換気ができないということで使用を許可しておりませんので、研修室は、だだっ広くて、使いにくいとは思いますが、そちらをご利用いただけたらと思います。

○議長

では、4 番目の項目をお願いします。

○館長

それでは、続きまして6 ページ目、4 の項目でございますが、4 の (2) の①でございます。

御承知のように、今年は防府図書館、三哲文庫が開館しまして、ちょうど80周年になるのですけれども、防府市教育委員会主催の防府図書館開館80周年記念事業の一環といたしまして、4月25日、正面ロビーのガラス面に三哲文庫新名称標を掲揚いたしました。この名称標につきましては、上山満之進翁の真蹟を拡大して、表札にしたものがございますが、そのレプリカでございます。

なお、その原本である「三哲文庫建築寄附に関する経緯」を展示室の方で展示しております。

また、2階の多目的ホールでは、山口大学の根ヶ山先生お迎えして、「上山翁

の詩業」ということで漢詩についての講演会がございました。

それから、図書館独自のものとしましては、4月1日付けで、「防府図書館80年の歩み」という図書館の80年の流れについてまとめた簡単な冊子を刊行し、講演会のときに、無料で配布させていただきました。

また、印刷物等には三哲文庫という通称名を加えて、一部CDの袋、あるいは封筒等も、すべて三哲文庫というロゴを入れて、新しいものを使っております。

○議長

何か御意見、御質問ございましたら、(1)の、寄贈冊数が909冊ということですが、郷土資料の寄贈の図書整理は、職員の方がやるのですかね。購入分については、図書館流通センター(TRC)がしていると思いますが。

○館長

TRCからの購入本はTRCに図書整理をお願いしますが、寄贈の本は、すべて館内(自館)で分類と整理等を職員がやっております。今年度は、特に多くの御寄贈いただきましたので、目標をはるかに超えている状況です。

○議長

なかなか大変ですね。

もう一つは(2)の①のところですが、正面ロビーのガラス面に三哲文庫新名称標が貼り付けてありますけれども、三哲文庫という上山満之進翁の筆跡による名称板がポンと貼ってあるわけですが、その傍にできたら、何か簡単な説明板があるといいかなと思いました。三哲文庫というものが、何で掲揚してあるのかについて、一般の方にはわかりにくいかもしれないと思います。美術館や博物館の展示物の傍に説明が出ていますが、あんな感じの説明板があるといいのではないかと考えております。検討していただければ。

それから、(3)①の春川市立図書館に寄贈する図書は、郷土関係とか、児童用とかが多いのでしょうか。

○館長

やはりどちらかというと児童の読み物類が多いです。今年も例年通りの構成になっております。

○議長

それでは、5番目をお願いします。

○館長

それでは続きまして7ページでございます。

大項目5の(1)の①につきまして、御説明申し上げます。

先ほどお話がございましたが、今年度は7月26日に開催されました中学校図書館研修部会の会議に職員が参加をさせていただきまして、学校教育における

ビブリオバトルの活用について、事例紹介等をするとともに、生徒さんのビブリオバトルへの参加をお願いする機会を設けていただきました。

また、②につきましては、コロナ禍における特別サービスということで、小学校の留守家庭学級を対象に、館内滞在時間をできるだけ短くできるようにということで、図書館職員が選書を代行して、貸出するサービスを行いました。このサービスは、非常に好評を得ておまして、学校数にして10数校、ほとんどの留守家庭学級で御利用いただいているような状況でございます。

同じく、5の(2)の②につきましては、煩雑になるために、表の方には記載をしておりませんが、当防府市文化振興財団内の連携ということで、アスピラートが企画しました「ふわふわシナモロール展」との連携企画としまして、図書館内に「集まれサンリオの仲間たち」という展示を行っております。

また、科学館ソラルのスポット展「集まれ本の虫」との連携企画として、ブラウジングコーナーにおきまして、関連資料展示「集まれ本の虫」を行いました。

なお、7月17日に開催した第10回防府市子ども読書フェスティバルにおいては、ソラルの学芸員による「集まれ本の虫」ギャラリートークを行い、7月22日には、図書館研修室で、「集まれ本の虫」の関連講座、「ムシムシイマジン 想像してみよう虫のこと」という特別講座を開講いたしました。

○議長

御質問、御意見ありましたら、お願いします。

(2)の最後の、アスピラートやソラルの学芸員のギャラリートークのことは、子ども読書フェスタの会報の3ページに出ていますね。なかなか好評でした。

その上のところに、山頭火ふるさと館の山頭火を学ぶ会に講師として職員を派遣と書いてありますが、これはどういうことですか。

○館長

この施設は今年から、財団を離れて、コンベンション協会の方に移管されているのですが、そちらから山頭火についての講演を依頼されました。もともと山頭火ふるさと館にいた職員が、現在、図書館におりまして、学芸員と司書と両方の資格を持っているのですが、この職員が講師として招かれて、1回行っております。また1月には第2回目の講演を担当する予定です。

○議長

そうですか。

本当に、財団関係の連携による企画は、なかなかいいですね。他は、よろしいですか。

(1)の①の学校図書館支援業務ですけども、その、黒丸の2番目、小学校

の選書会用に新刊本を貸出しているということですが、これは従来、本屋が持ってきた選書会用の図書だけでなく、図書館からも、新刊を選んで、選書会用に持っていかれるということですかね。

○委員

私がボランティアを行っている小学校でも、この図書館から貸出していただいた選書会用の本で選書会をしていました。今年はコロナの関係で、あんまり子どもたちの近くで、一緒の空間にいられなかったのですが、やり方は新刊本と、それに対しての紹介文は学校司書が作られて、それをセットで展示してありました。低学年・中学年・高学年で各 20 冊ずつ展示されて、その中から子どもたちが読んでみたい本に投票するという形で、その得票数が多かったものを学校で購入していただくというものです。結局 80 冊ぐらいが、実際に子どもたちの目に触れるのですけれども、結構これぐらいだったら、購入しようと思えばちょっと規模の大きい学校だったら、そのまま全部購入できるのではないかっていうぐらいの冊数ですが、やっぱり子どもたちの読みたいという本もよくわかりますし、また、学校司書の思いというのも伝わってきて、とても楽しい行事になっていると思います。絵本と読み物だけなので、できればもっといろんなジャンルの本、例えば科学の本とか、そういうのも貸していただければなと思うのですけれども、図書館から借りるとなると、この冊数が長期間、学校を回るということなので、その辺りが少し難しいのかなとは思いますが。しかし、子どもにとっては、実際に本を見て、さわる機会というのは、すごく減っているんで、できれば冊数を増やして、なるべく学校にいろんなジャンルの本を、子どもたちの手や目に触れさせたいなと思います。今、本屋に行っても本当に、今売れる本しかないのです。昔の名作とかもないし、本当に読んで欲しいなっという本がないのです。今だったら、もう鬼滅の本ばかりで満たされているので、そういう物ばかりではなくて本当に子どもたちに読んで欲しい本を、子どもたちの目に触れさせるためには、冊数を増やして、いろんなジャンルの物を入れていただけたらなと思いました。

○議長

小学校を選書会用に巡回するっていうことになると、一定期間、新刊本が出て行くことにはなりますが、100 冊としても、20 万ってところですかね。だから、複本として、図書館に入れてもいいのではないかと思いますけれども。御検討いただければと思います。

それでは、6 番目をお願いします。

○館長

それでは続きまして 8 ページになります。

6 の (1) の①につきまして、第 9 回目となる防府市図書館を使った調べる学

習コンクールへの出品予定者のうち、希望者4人を対象に「チャレンジ調べる学習」と銘打って、テーマの決め方調べ方、まとめ方について助言する講座を開講いたしました。

なお今年度、すでに締め切っておりますが、出品数は小学生が21点、去年は3点でございました。中学生が6点、去年は1点だけでございました。ということで、総数では27点と、昨年、夏休みが短かったせいで、非常に少なかったのですけれども、今年度は27点の応募がございました。ただ、一昨年に比べますと、それでも半数程度ということになっております。夏休みが短縮されたところもあったのでしょうか。もっともっと参加者が増えるように、今後も周知に努めて参りたいと思います。

また今年度からの新規事業としまして、7月25、26日の2日間、小学生の中学年以上を対象にしました夏休み読書感想文教室を開催しました。昨年から実施する予定でしたが、夏休みがございませんでしたので今年度からの改めでの実施ということで、それぞれコロナ禍ということもあり、8人ずつ、中学年と高学年の2回に分けて、児童とその保護者が参加しまして、私どもで独自に作成したワークシートを使いながら、感想文の下書きを書いてもらいました。参加者からは、今までよりもスラスラとかけたと、評判もまずまずでございました。

さらに、今年はえんしん幼稚園から御依頼があつて、職員が出向き、園児と保護者・職員を対象に絵本の読み聞かせを行いました。図書館内でのおはなし会だけでなく、今後とも、要請があれば幼稚園や保育園等にも出かけて行って、子どもの読書活動推進に努めて参りたいと考えております。

○議長

では、御質問、御意見ございましたらどうぞ。

布絵本を展示するための書架を希望されていると聞いておりますけど、いかがですか。

○委員

子どもたちにすぐ触って、ワクワクしてもらいたいという気持ちで、身近なところに置かせてもらえたらいいなと思って、図書館で考えてもらっています。

図書館では、子どもに対しての活動推進について、いろいろ考えて開催されていることは評価できるかなと思います。広報についても、壁をいろいろと使って、皆さんに知ってもらえるように、広報を頑張っておられるなというのを感じています。

○議長

図書館ボランティアの「まーぶる」の方たちが、展示とか飾り付けなんか頑張っておられますね。

○委員

最近、特にブラウジングコーナーもよく活用をされていて、ただの白い壁ではなく、いつも何かを展示されているなあと感じます。

○議長

職員の方も本当に習熟されてきて、いろいろ工夫し、頑張っておられますね。

それで職員については、(2)の下の方に、ブックトークの実施ということが書かれていますが、定期的にするのは研修の意味もあっていいのですが、度々重なると負担になるのではないかと考えますが、大丈夫ですか。

○館長

実は、やはり一昨年から、各団体年間3回までということで、少し回数を減らしていただくようお願いしております。団体の皆さまには、心がけていただいております。職員も準備がありますので、なかなか数多くのブックトークができないのですけれども、各団体3回まででお願いしており、快く了承していただいております。

○議長

ありがとうございます。

お話をされている委員さん、コロナ禍で感じておられることがありましたら、どうぞ。

○委員

私たちの活動は、お話し会というよりも、自分たちが子どもたちと本当に身近に関わって、お話を広げていく朗読劇が主なので、今、コロナになって、私たちの練習自体もできないし、集まることもできないし、本当に朗読劇というのができない状態になっています。

唯一、山口の児童センターは、コロナ禍でもやって欲しいと言われたので、年に1回は開催しています。そこは児童センターですから広くて、子ども達が集まってもできると言われるぐらいに、すべてがゆったりしているので、去年もやりましたし、今年もやります。そういう状況なので、図書館にはいろんな道具を置かしてもらって、そして研修室で空いたときに、練習させてもらっています。

お話の部屋が、狭いので使えないと言われるのですが、私は、お話のへやの入口を開けていただいて、せめて1ヶ月に1回ぐらい、朗読劇をしたり、布絵本とかの展示をしたりできないかなあと思っています。もったいないなと思っています。私は、私たちは使えないけれども、あの部屋の入口を開ければ、何かに使える方法があるのかなと思います。来年以降、コロナが終わり、大きな声を出していいようになりましたら、私たちの活動も、また再開したいと思います。

以前、図書館のお話のへやで練習していると、ときどきガラス窓から中を覗い

ている子どもを呼び込むことができました。お母さんには入口で見えてもらって、子どもは中で練習を見てもらうこともあって、そういうことがまたできるかなと思うので、早くコロナが収束して欲しいと思っています。

○議長

お話のへやを、何かに活用できないかについては、御検討いただければと思います。

○委員

子どもたちの読書活動の推進に向けて、チャレンジ調べる学習とか、読書感想文教室を開催していただきありがとうございます。

また、今週、調べる学習のコンクールの審査会もあると思いますが、特に今年の作品は、見事な作品ばかりだなと私もびっくりしています。これらのイベントで、どんな指導をされているのかや、その活動に参加した子どもたちがどんな感想をもっているかななどを、いろんな機会に載せていただくと、他の子どもたちも参加してみようかなという広がりが出てくるのではないかと思います。

学校も、今は、社会に出たときにどんな力が役に立つのか、どんな力をつけていかななくてはいけないのかなということを考えながら活動している中で、この調べる学習というのは、本当に、役立つ学習だなと思いますので、ぜひ広げていけたらなと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

○議長

ありがとうございます。

図書館、学校図書館ともに読書センター、学習センター、情報センターの機能があるわけですが、読書センターとしての機能については、皆さん周知していただけているのですが、ものを調べるところっていう認識がまだまだ薄いのですよね。

また、タブレット端末が配布されることによって、デジタル資料で調べれば済むのではないかという傾向になりかねないところがありますので、ぜひ紙媒体の資料の情報活用能力とデジタル資料の両方を活用して、学習情報センターとしての機能を、図書館としても宣伝していくためにも、この調べる学習コンクールは意義があると思っています。

○委員

情報化の急速な進展とともに、家庭や地域の絆の希薄化が進む中、防府市青少年育成市民会議では、すべての子どもたちの健やかな成長を願い、「家庭の日」運動をはじめ、いろいろな事業の推進に取り組んでいるところです。

最近、スマホやタブレットの利用機会が増え、利用の低年齢化が進む中、子どもたちにとってメリットはあるものの、読書離れをはじめ様々な課題も見られるようになりました。中でも、子どもの豊かな心を育てる上で、

幼少期からの本との出会いは、極めて大切だと言われております。先ほど、職員の方が、幼稚園に出向いて、絵本の読み聞かせをしておられるとお聞きしましたが、とても素晴らしいことだと思います。読み聞かせは、職員の方がされるのですか。

○館長

はい。

○委員

すばらしいことだと思いますが、読み聞かに参加されるのは、幼稚園・保育園等の子どもたちはもちろんですが、保護者は参加されますか。

○館長

はい。参加されます。

○委員

それは、とてもいいことですね。プロの方が読み聞かせをされ、園児の皆さんが聞くだけでなく、保護者の方も聞いておられる。さらに、そこで学ばれた保護者の方々が、家でも絵本の読み聞かせをされるようになると、情操豊かな子どもたちが育っていくと思います。とてもすばらしい企画で、その輪が幼稚園、保育園から家庭へと広がっていき、健やかな子どもたちが育って欲しいなと思っております。

心から拍手を送っております。今後とも、よろしくお願いいたします。

○議長

どうもありがとうございます。

他はよろしいですか、それでは7番目を、お願いします。

○館長

それでは続きまして9ページ目でございます。

7の(2)の①につきまして、先ほども少し触れたかと思いますが、実は昨年度の3月ぐらいから取り組んでおりますけれども、ようやくこの9月21日で国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービスの送信承認館として登録されました。具体的には、国立国会図書館が所蔵し、或いは作成した、そうした図書、主にデイジー図書と、もともと防府図書館に所蔵がある、伊藤忠記念財団から寄贈を受けたデイジー図書を使って、防府図書館を通して障害者、或いは活字の読みづらい方に、郵送或いはCDに焼き付けたものを公民館にお願いして、逡送便等での受け渡し等、諸々のサービスを、来年の4月からスタートしようと考えております。まだ正式名称が決まっておりませんが、今のところ、防府図書館ひなぎくネットと銘を打ちまして、障害者等へのサービスを広げていきたいというふうに考えております。今、ちょうど障害福祉課の方にもお願いして、今までの地域文庫に加えて、公民館で障害者用の資料であるデイジー

図書の貸出の窓口になっていただくようお願いしたり、或いは郵送だと少しお金がかかってしまいますので、メールでの送信等も考えてみたりしております。この取り組みは、まだ具体的に、皆様にチラシでお見せできないのですが、今年度内には細かいところまで詰めて、4月スタートの予定で準備を進めておるところです。

○議長

ただいまの説明に対する、質問、御意見ありましたら、お願いします。

前から高齢者に対して言われていましたが、何かありました。

○

委員

サービス計画策定の時に言うべきこと、その時言ったと思うのですが、障害者とか高齢者に対するサービスとして、守る方、支援する方ばかりというか、弱者支援みたいな形ばかりを取っているような感じがしています。障害を持っている方も一つの多様性だし、高齢者も多様性だし、私もだんだん高齢者となっておりますけれども、多様性というふうにとらえていくという視点が、とても大切だなと思っています。出来上がった計画を見ると仕方ないと思うのですが、計画を立てるときに、例えば、元気なお年寄りというか、世の中にも防府にもいっぱいおられるので、そういう方たちの図書館利用の部分が、いつも欠けているような気がするのです。ただ、この3年度事業計画を見たら、仕方ないなと思っています。ですから、4年度事業計画を作られる時に、とにかく1(1)は、気軽に楽しく、利用できる図書館という時に、障害を持っている方や、高齢の方たちも、楽しく気軽にという部分と、それから守らなければならない社会福祉的な保障の必要なお年寄りや障害の方たちばかりではないので、元気なお年寄り、障害者の中にもいろいろいらっしゃるのです。そういう方たちへの図書館利用の促進という部分を、令和4年度には少し出していきたいなと思っています。

高齢者には2通りあってですね、当然、支援していくことは必要なのですが、支援の具合によっては、たくさんいらっしゃる元気なお年寄りの方たちの活用というか、今までの知識や貯められたものを、図書館でうまく使われていくと、お互いに何かこういう交流ができるのではないかなと思っています。今回のこれを見ると、3年度は、大活字本や展示本とか、音声つきインターネットサービス利用、それから国立国会図書館のサービスを開始されるということは素晴らしいなと思っています。

最近思うのですが、それをやっただけじゃなくて、どう利用されるかとか、どういうふうに普及させていくかというところも、考えていただきたいなと思います。

元気なお年寄りとか、障害を持っている方にも、いろいろいらっしゃるわけだから、そういう方たちへ支援したり手を差し伸べたりするばかりでなくて、その人たちが元気で参加できるようなことを考えて欲しいということとか、データ送、デイジー図書も素晴らしいことだと私は思いますが、ただ、それはあくまでもスタート時点で、それをどう使うかって、さっきの春川の件も、資料を交換して置くだけでは、何にもならないと思うのです。これはスタートですので、やっぱり次にどういう形で春川と交流するかという次の段階が、いつも必要かなと思っております。よろしく願いいたします。

○議長

館長、何か御意見がありましたら。よろしいですか。

○委員

私もちょっと耳が遠い方で、障害とはいませんが、結構不自由をすることも多いのですが、今、図書館では、コロナ禍のためビニールシートを設置しているので、お年寄りが対応をしにくいようです。なんだか簡単な意見を言って申し訳ないのだけれど、対処してもらいたいなと思います。図書館は静かなところということで、職員もなかなか声が小さいため、聞こえづらいので、お年寄りはどんどんどんどん声が大きくなってしまいうようです。優しく対応していただけたらいいなと思います。

○議長

先日、東京テレビで夜に放送されるWBS（ワールドビジネスサテライト）で、ロボットが給仕をしたり、注文聞いたりするカフェが紹介されていました。それはデジタルを使って、遠隔地からですね、全国、各地から身体障害者の方が、ロボットを使って、いろいろ注文聞いたりし、給仕をされたりするのを指令するってということが紹介されていました。このデジタル化によって、身体障害者の方、また高齢者の方が、それを活用しているんなことがまた可能になってくるってところがあるようですね。

私も以前に、回想法のことをお願いしたことがありますけれども、古い写真とか、器物を見ながら、いろいろな思い出語りをするということですが、NHK回想法ライブラリーというがあるので、そういったものも、活用すると、何かまた新しい展開ができるかなというふうに思っております。

それと一緒に朗読をしたりするということも、山陽小野田市立図書館がされているかと思いますが、名作とか、有名な詩をみんなと一緒に朗読したりすることをされています。

要するに、支援ってということだけじゃなくて、もっと積極的に何か、高齢者、身障者の人にもやっていただくという図書館の活用法も検討していただければと思います。

他によろしいですか。全体通して何か、御意見がありましたら、どうぞ。

○委員

市役所が新築されるということで、今、工事も始まっておりますが、公会堂の生涯学習課がルルサスの空き店舗のところに入るということになるのでしょうか。以前からイオン側から見た時に、ルルサスに図書館があるのがわかりづらいという話をしてきましたが、ルルサス1階の空き店舗に入るのでしょうか。

○教育部長

文化福社会館（以下、文福）でございますけども、新しい庁舎ができましたら、文福にはもう耐震性がないということで解体ということになっています。そうすると、文福には社会福祉協議会や生涯学習課が入っております。それで、ルルサス1階に講座機能を移すように準備をしております。来年の夏ぐらいには移ると思います。文福の3階に大きな会議室でございますけども、それが新しい庁舎の最上階、8階に作られるということです。

生涯学習課については、来年、ルルサスに移るというわけではなくて、また建物は、文福がございまして、講座機能が移ってくるということになります。新しい庁舎ができたからおそらく、生涯学習課の職員は新しい庁舎に入ってくるのではないかとということでございます。

○委員

ルルサス1階が空いてるから、人が集まりにくかったのですが、あそこが講座室になったら、人がたくさん寄ってこられますので、防府図書館の名称もそこに入れていただいて、ここの3階に行けば図書館があるとか、ホワイエがあるのだったら、そのホワイエに図書館ものがあれば、ここの3階に図書館があるのだなと匂わせるようなコーナーを作っただけだと、もっと他の方でも、行かれるのではないかなと思っております。少し期待しておりますので、よろしく願いいたします。

○議長

前から言われておりますので、御検討いただければと思います。

先ほど言った名作の朗読は、音読教室のことです。

それでは、その他、何かありましたら、事務局の方からお願いします。

○事務局

その他についてです。

今回、第2回目の図書館協議会でございましたが、次回の令和3年度第3回目の図書館協議会は、来年の2月頃の開催を予定しております。その協議会では、令和4年度の図書館事業について、図書館から説明をしたいと思っております。よろしく願いいたします。

○議長

次回は2月ごろということで、本日は、長時間にわたり御協議いただきまして、ありがとうございました。

本日は、令和3年度の第2回目の会議ということで、今年度事業の途中経過について、説明を受けて、御意見、御質問等をいただきました。

今後も、委員の皆様方の御意見をいただきながら、図書館事業が充実したものになるように協議を進めて参りたいと思います。

図書館は生涯学習の中核施設、街の情報拠点として、一層充実発展してまいりますように御協力をお願いいたします。

これをもちまして、本日の議題等についてはすべて終了しました。

では、事務局にお返しいたします。

○事務局

それでは以上をもちまして、令和3年度第2回防府市図書館協議会を終了いたします。皆様、本日は長時間にわたり御協議賜り、まことにありがとうございました。